

都市再生整備計画(第4回変更)

甚目寺駅周辺地区

愛知県 あま市

平成22年9月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	あま市	地区名	じもくじまきしようへんちく 基目寺駅周辺地区	面積	37.1 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

**目標**

大目標：ひと・文化・歴史が出合う、基目寺の新たな顔づくり  
 目標1 地域の顔となる、利便性の高い広場空間の形成を目指す  
 目標2 歴史・景観資源、文化・活力資源、人的資源を十分に活用した、魅力あふれるまちを目指す  
 目標3 安心して訪れる・住むことができる、安全なまちを目指す

**目標設定の根拠**

まちづくりの経緯及び現況

[地区の特徴]

- ・本地区は、名鉄津島線基目寺駅を中心とし、商業施設や公共公益施設が集積する旧基目寺町の中心商業地である。
- ・本地区は、飛鳥時代に起源があるとされる基目寺観音(国指定重要文化財に指定)を核として、近代以前から門前町が形成され、高度経済成長期以降には名古屋都心部まで15分程度という地理的優位性から名古屋市のベッドタウンとして急速に発展し、基目寺駅を核に商業地、その後背部に住宅地が形成され、旧基目寺町内で最も地区別人口が多いまちの中心地域となっている。
- ・しかし、本地区は、門前町として自然発生的に集落が形成されたうえに、高度経済成長期以降の急速な市街化の結果、計画的な基盤整備がなされていない状況にある。

[まちづくりの現況]

- ・地区北部には、大規模商業施設や公共公益施設が集積しているが、当地区のアクセス拠点となる基目寺駅には南口改札しかないため、駅前広場整備をはじめとする駅周辺の開発が望まれている。
- ・地区南部には、基目寺観音などの神社・寺院や鎌倉街道へ連絡する津島街道(西条清洲線)といった文化的空間が多く存在しているにもかかわらず、その資源を十分に活用し切れていない状況にある。
- ・本市は、平成14年には東海地震に係る地震防災対策強化地域に、平成15年には東南海・南海地震防災対策推進地域に指定され、人が多く集まる本地区においても災害に強いまちづくりが求められている。

[これまでの取り組み]

- ・このような状況下、基目寺駅周辺地区のあるべき姿を設定し、その実現化を進めるために、平成15年度に旧基目寺町職員を主体に愛知県、国土交通省の関係部署をメンバーとした基目寺駅周辺整備計画等研究会、旧基目寺町議会議員による駅周辺整備計画調査特別委員会、平成16年度に地域住民、鉄道利用者、地元経済界等による駅周辺まちづくり検討会を立ち上げ、駅周辺におけるまちづくりについて官民協働で積極的な検討を行い、駅周辺整備基本構想を策定した。

課題

- ・本地区は名鉄津島線によって南北に分断されており、鉄道改札口のある駅南側へ通じる道路も一方通行等の規制により、駅へのアクセスが煩雑な状況となっている。また、駅周辺の基盤整備は進んでおらず、近年市街化が進んでいる本地区外周部(特に北部方面)からの自動車・自転車利用者への対応が十分にされていないことから、利便性の高い広場空間の整備を図る必要がある。
- ・本地区は①基目寺観音をはじめとした歴史・景観資源、②駅前の商業空間など、旧基目寺町中心部としての文化・活力資源、③地域住民・来街者などの人的資源の、3つの資源が十分に活用されていないことから、基目寺観音参拝者が減少し周辺商店街が衰退傾向となっており、地域特性と既存ストックを活用した振興策の展開を図る必要がある。
- ・本地区は旧基目寺町内で最も人口が多い区域であるが、防災対策(安全な避難所の確保や非常時のライフライン確保)が遅れていることから、安心して訪れ、住むことができるまちとして、防災施設の整備改善を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- ・「第3次基目寺町総合計画」では、「明るく 住みよい 緑の多いまち」を町の将来像とし、本地区は、「まちの顔」として、商業や観光に配慮しながら、景観の良い市街地形成が必要であると位置づけられている。また、生活環境や都市基盤の整備に努めるにやさしいまちづくりを進めること、さらに、大規模自然災害に備えて、防災体制の整備が必要であると位置づけられている。
- ・「基目寺町都市計画マスタープラン」では、町の将来像を「歴史と緑あふれる快適生活都市」と設定し、本地区は、「商業・業務核」として位置付けられており、商業・業務活動や文化活動など複数の都市活動が複合する海部郡東部の中心地区の形成を進めていくこととされている。また、駅前広場の整備と合わせた市街地再開発による商業機能の集積や、基目寺観音を活用した観光地型商店街の整備を検討することが位置づけられている。

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		従前値		目標値	
						基準年度		目標年度
1. 駅前空間の利便性の満足度	ポイント	住民アンケートでの駅前空間の利便性の満足度(5段階評価)	駅前空間の整備を行ったことによる、交通結節点としての魅力や各施設の利便性向上等の成果をアンケート調査により評価し、調査結果の住民満足度指数向上を図ることにより、目標を達成することとする。	1.8ポイント	平成17年度	3.5ポイント	平成22年度	
2. 基目寺観音参拝者数	人	地区内の代表的施設である基目寺観音への年間参拝者数の減少抑制	地域特性と既存ストックを活用した地域振興策の展開の成果を、地区の代表的観光施設である基目寺観音の参拝者数として評価し、基目寺観音年間参拝者数の減少傾向を抑制することにより目標を達成することとする。	約60,000人	平成15年度	約60,000人	平成22年度	
3. 市民(旧基目寺町民)の防災満足度	ポイント	住民アンケートでの行政の防災対策について満足度(5段階評価)	防災面における整備改善・PRの成果をアンケート調査により評価し、調査結果の住民満足度指数向上を図ることにより、目標を達成することとする。	2.3ポイント	平成17年度	3.5ポイント	平成22年度	
4. 放置自転車数	台	駅周辺の放置自転車数	駅南北の自転車駐車場整備による駅周辺の利便性や景観の向上について、駅周辺の放置自転車数として評価し、放置自転車をなくすことにより目標を達成することとする。	約800台	平成17年度	0	平成22年度	

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(地域の顔となる、利便性の高い広場空間の形成を目指す)</p> <p>・駅北の広場整備を核に、北側改札の新設、駐輪場の設置、駅へのアクセス歩道整備等を行うことにより、駅前地区の利便性の向上及び賑わい空間の形成を図る。</p>	<p>・道路(基幹事業/(都)五条高校線および駅前広場、五条高校線、駅アクセス歩道、自転車駐車場)</p> <p>・高質空間形成施設(基幹事業/シェルター、照明施設等)</p> <p>・地域創造支援事業(提案事業/駅前周辺空間整備促進事業)</p> <p>・まちづくり活動推進事業(提案事業/駅前広場ワークショップ)</p> <p>・基目寺駅北口駅舎新設工事(関連事業)</p> <p>・基目寺駅バリアフリー化工事(関連事業)</p>
<p>整備方針2(歴史・景観資源、文化・活力資源、人的資源を十分に活用した、魅力あふれるまちを目指す)</p> <p>・地域特性と既存ストックを活用した振興策の展開を図り、まちの魅力を総合的に向上させるために、「来街者を誘導」、「景観に配慮した照明施設・ストリートファニチャー」、「観光・地域活性化のための交流空間」等の整備を図る。</p> <p>・旧町民の自主・自立的なまちづくり活動による地域活性化を推進するために、町民主体のソフト施策を企画・計画・実行するためのワークショップ等を開催する。</p>	<p>・高質空間形成施設(基幹事業/ストリートファニチャー)</p> <p>・地域生活基盤施設(基幹事業/(仮称)基目寺駅前交流ひろば、総合案内サイン等)</p> <p>・まちづくり活動推進事業(提案事業/観光地形成ワークショップ)</p> <p>・まちづくり活動推進事業(提案事業/基目寺観光交流センター活用ワークショップ)</p>
<p>整備方針3(安心して訪れる・住むことができる、安全なまちを目指す)</p> <p>・防災面での整備改善を図り、安心・安全なまちを目指すために、災害時の緊急避難場所となる基目寺小学校の耐震補強や、飲料水確保のための耐震性防火貯水槽の設置、公共空間確保策としての道路・ポケットパーク整備等を行う。</p>	<p>・道路(基幹事業/(都)五条高校線および駅前広場、基目寺森線歩道設置、駅アクセス歩道)</p> <p>・地域生活基盤施設(基幹事業/地域防災施設:耐震性防火貯水槽整備事業等)</p> <p>・地域創造支援事業(提案事業/基目寺小学校耐震補強事業)</p>
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>・施設の維持管理については、駅前広場や駅アクセス歩道の清掃作業等を商店街・自治会等で行えるように今後協議を進めていく。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について</p> <p>・あま市 都市計画課が事業の総合調整機関としての任務を行う。</p> <p>・本事業に関連する部局間で、連絡調整会議を定期的開催し、事業進捗の確認、事業内容の調整等を行うことで、効率的な事業推進を図っていく。</p> <p>・事業進捗状況を、「広報あま」で事業の節目ごとに随時公表することで市民への周知を図っていく。</p>	



